

うちの  
山車自慢！  
各町内の若衆頭が総出演

約300年の歴史

佐原の町は小野川を境に、東岸を本宿、西岸を新宿と総称し、本宿では7月中旬に八坂神社の祇園祭、新宿では10月中旬に諏訪神社の大祭が行われています。この両祭礼の付祭りとして行われているのが「佐原の山車行事」です。

山車は、最上部の露台とその下の離子台の二層構造で、露台の上には大きな飾り物が据えられています。鯉や鷹のわら細工もあります。多くは神話や歴史上の人物をモチーフにした大人形で、山車全体で9m近くにもなります。この大きさと町内特有の飾り

物が山車の最大の特徴です。両祭礼に関する起源や変遷などは、不明な部分が多いのですが、少なくとも江戸時代の中頃には現在の山車行事につながる練り物の祭りが行われていました。

その後、徐々に発展する過程で山車が登場し、その上に職人の手による大人形が飾られるようになったのは江戸時代末期頃と考えられます。

各町が意匠を凝らした山車飾り、豪華な彫刻、下座連が山車の運行に合わせて情緒豊かに演奏する佐原囃子、曳き廻しの技を見せる曲曳き…。祭りの伝統は、現在まで脈々と受け継がれてきました。

佐原の祭りは、そもそも崇敬の心を持ち神社に農作物を奉納するのが始まりだったと聞いています。昔々は奉納に荷車を使用して、それが現在の山車の形になったという言い伝えですね。

無形文化遺産に登録決定して、とてもうれしいです。でも、喜んでばかりはいられません。今後、後輩たちにどんな風に教えていくか—この祭りは継続していかなくてはと思うんです。約300年続いたのだから、もっと続いてほしい。そのためには大事に曳き廻しをして、誇りある山車をみんながかわいがって



▲かつて旧関戸町の飾り物だった「猿田彦」人形は、潮来からもその姿が遠望できたという話が伝わっています。

もらいたいですね。



佐原山車行事伝承保存会会長  
山崎香芳さん（佐原イ）

山車を大事にして  
若い人たちへ継承を

無形文化遺産に登録決定して、とてもうれしいです。でも、喜んでばかりはいられません。今後、後輩たちにどんな風に教えていくか—この祭りは継続していかなくてはと思うんです。約300年続いたのだから、もっと続いてほしい。そのためには大事に曳き廻しをして、誇りある山車をみんながかわいがって

立派な彫り物と玉簾！  
若連の結束も自慢です。

**寺宿**  
きんときやまはば  
金時山姥



飯田 功治さん

彫刻の欄間と、方立を見てほしい！

**荒久**  
あらいのきと  
経津主命



関 慎太郎さん

佐原で一番古い山車！  
人形と彫り物がいいけど「額」にも注目して。

**下仲町**  
すがらのみちさね  
菅原道真



武田 洋一さん

赤い漆塗りの山車で、大天上の漆時絵が自慢です！

**田宿**  
いざなぎのきと  
伊弉那岐尊



宇佐美 正さん

神楽殿造りの大天上と、額を支える阿吽の唐獅子は必見です！

**本川岸**  
あまのうすめのみと  
天鈿女命



松川 貴洋さん

柱全部が斗組なのはうちだけ！

**上仲町**  
おおたどうかん  
太田道灌



宮下 武さん

町内のみんなで手作りした鷹が自慢です！

**仁井宿**  
たか  
鷹



奥主 喜祝さん

自分たちで作った鯉の飾り物。これは他にはないです！

**八日市場**  
こい  
鯉



小谷 哲也さん

江戸後期の職人の技を伝える重厚な彫刻が自慢です！

**船戸**  
ふねと  
神武



菅生 聡さん

山車の装飾に使われている彫刻、螺鈿細工は、江戸時代のものを継承しています。

**浜宿**  
たけみかづのきと  
武甕槌命



太田 雅之さん



表紙から動画でも紹介しています

# 祇

額の横の彫り物！  
一丸となれる町内が自慢。

## 下宿

源頼義



藤川 和弘さん

生人形師三代目安本亀八作の、どこよりもリアルな人形が自慢です！

## 南横宿

仁徳天皇



菅生 武史さん

大楠公が自慢。でも町内の人たちがもっと自慢！

## 東関戸

大楠公  
(楠木正成)



大竹 尚起さん

150年余り受け継いでいる立派な彫り物が自慢！

## 上宿

源義経



東 正太郎さん

大きい分だけ扱いが難しい山車を、若衆で頑張って曳き廻しています！

## 西関戸

瓊瓊杵尊



向後 健司さん

佐原で古い人形のうちの1つです！ 一致団結している町内の人自慢です。

## 新橋本

小野道風



武雄 鎮衛さん

若連と女の子たちが魅せる、一体感のある元気な曳き廻しを見て！

## 上新町

諏訪大神



坂本 浩輝さん

人形の顔が魅力！  
それから仲間が自慢かな。

## 下分

小楠公  
(楠木正行)



吉田 徹さん

## 中宿

桃太郎



※昭和30年代を最後に、  
現在山車の曳き廻しは行われていません

人形の表情と立体感あふれる彫刻が自慢です！

## 北横宿

日本武尊



滑川 淳さん

120年の歴史を持つ山車に  
に恥じない曳き廻し！

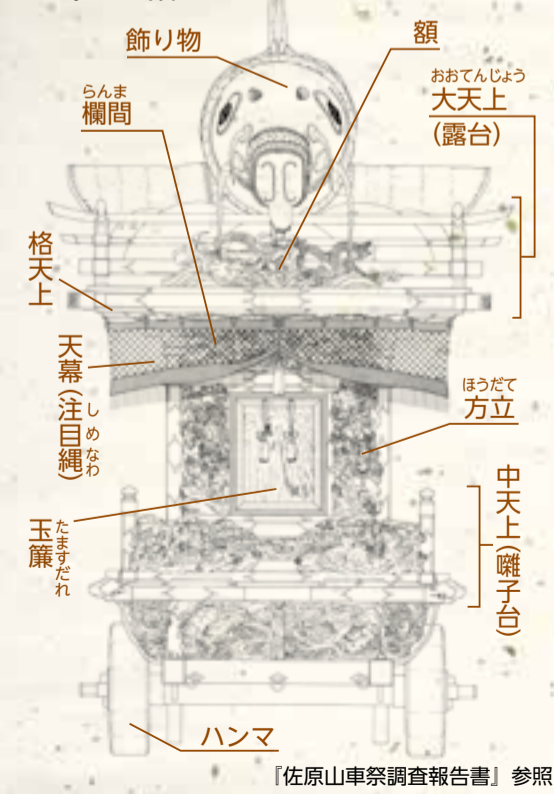
## 仲川岸

神武天皇



篠塚 景市さん

## 山車の構造



【佐原山車祭調査報告書】参照

120年経っても光輝く本金糸の七五三縄と、佐原一幅広い山車を操る曳き廻し！

## 下新町

浦嶋太郎



高木 和彦さん

日本神話や南北朝を題材にした重厚な彫り物や豪壮な「額」が自慢です！

## 下川岸

建速素盞鳴尊



久保田 智博さん

等身大の人形と総透かし彫りの「額」が自慢です！

## 新上川岸

牛天神



小林 久人さん

彫り物は「柱隠し」という技法で6本の柱が見えないところに注目！

## 上中宿

鎮西八郎為朝



石塚 憲司さん

## 世界はここを評価

地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行う「山・鉦・屋台」の巡行を中心とした祭礼行事が、ユネスコの審査で評価されたポイントは、次の3つに集約されます。

### point 1 地域コミュニティ

各地域において世代を超えた多くの人々の間の対話と交流を促進し、コミュニティを結びつける重要な役割を果たしていること。

### point 2 技術の伝承

伝統的な工芸技術により、何世紀にも渡って維持され、またこの方法は幾世にもわたり継承されてきたこと。

### point 3 再生可能な材料

木工、漆、染物といった地域の自然環境を損なわない材料を利用し、工夫や努力によって持続可能にしていること。